

教材になっている『裸の王様』

裴 崢

アンデルセンが書いた『裸の王様』は、誰でも小さな時に読んだり聞いたりしただろう。この作品は、中国では中学校1年語文（国語）の教材として採用され、題名は『皇帝の新装』となっている。

新しい服を着たがるばかりの王様は、2人のいかさま師に騙された。いかさま師は自分たちの作った衣装はこの上なく美しく、また、その地位にふさわしくない者や手に負えないばか者にはその服が見えないのだといい、王様から多額なお金や高価な原料を取り、何も作っていないのに、作っているふりをした。王様は機織りのところへ大臣などを見に行かせたが、その地位にふさわしくない者や手に負えないばか者だと言われたらいやなので、みんな何も見えないのに、「本当に美しい服だ！」と嘘をついた。王様はそれを着て行進した。家臣や人々は誰も「新しい服」が見えないのに、「美しい服だ！」と口を揃えた。この時、一人の子供が、「だけど、なんにも着てやしないじゃないの！」と叫んだ。「なんにも着ていらっしやらないって」と人々は囁き合った。王様はぎくりとしたが、更に堂々と行進し、家臣たちも、存在していない長い裳裾を抱えている格好をして、王様の後ろを歩いていった。

この教材は、1964年私が中学1年に入った時には習わなかった。文化大革命の時期にも教材として取り上げられてはいない。文革が終わってからまもなく、1978年にこの作品は試用書の教材の1つとして取り上げられ、出版された。87年には、人民教育出版社による初級中学教科書国語第1冊に、この作品が採用された。92年に、「九年義務教育全日制初中語文教学大綱」によって編集された中1の国語教科書に、引き続きこの作品が採用されている。その理由は、かつて正しいと教えられたことを、みんながただ調子に乗って一生懸命に従ったことへの反省などによって、この作品が取り上げられたので

はないか、と私は考えている。

1 中国での指導方法

巧みな構成と誇張された表現が特徴といえるこの作品は、上海教育出版社が出している『語文学習』によると、中国では、次のような指導方法で授業されている。

(1) 5つの問いを通して、作品世界を総合的に理解する

問い1 『皇帝的新装』では、誰が一番おかしいですか。

生徒はみんな「裸になって行進した王様は、大馬鹿だ。彼が一番おかしい」、と口を揃えた。

問い2 『皇帝的新装』では、誰が一番憎らしいですか。

一瞬の沈黙があったものの、一人が立ち上がって、「2人のいかさま師を殺してやりたい」と発言すると、みんなが拍手した。

問い3 『皇帝的新装』では、誰が一番卑劣だと思えますか。

「年寄りの大臣」が一番卑劣だ。彼は実際何も見えていないのに、王様に織物の柄や色あいが実に美しいと報告するなんて、「人のよいお役人」が一番卑劣だ。彼はまったく見えもしない織物を、誠にきれいと褒めまくるなんて、「家来」が一番卑劣だ。何もないのに、もっともらしく裳裾を捧げるふりをするなんて」と生徒たちは答えた。家臣たちの卑劣さが指摘された。

問い4 『皇帝的新装』では、誰が一番かわいいですか。

生徒たちは急いで本をめくったり、囁きあったり、表現に傍線を引いたりした。そして、「その小さな子供が一番かわいい」と声をあげた。

問い5 白昼で、みんなの目の前で、何故いかさま師は嘘をついたのですか。

この問題には筆記で答えさせた。「いかさま師が嘘をつけたのは、世の中には自分の身を守るために法螺や嘘をあえて信じる人がいるから」、「大人になったら、子供の素直さや純粋さが失われ、いかさま師には都合のいい条件

が整ってくる」などと、書かれたり。

作品の世界を味わうため、語句や段落ごとに読むのではなく、設問によって理解を深めさせるのはいい方法だ。しかし、問い1のような決まり切った設問は必要がないと思う。問い2, 3, 4は文章にどう書いてあるかと聞くのではなく、どう感じるのかと聞いているところがいい。問い5については、押しつけがましくなりがちだから、「だれが、一番頭がいいと思いますか。その理由を説明してください」にした方がいい。そうすると作品にもとづいてもう一度考えないと答えられなくなる。場合によっては、子供だという答えも出てくるかもしれない。

いかさま師は、どのようにしたら利益は上げられるか、と状況を的確に判断し、すぐに実行した。お金も手間もかからない。ただもっともらしく振る舞った。保身のためには、見えないものでも見るとするような状況がこの国にはあったのだ。いかさま師はこの状況を利用した。何も見えないのに、大臣たちは「見える」「すばらしい」と褒め称えた。王様はおかしいと思って、裸で行進した。見たままを表現したのは子供だけだった。

「一番感銘した箇所を指摘してください」という問いも設けることができる。たとえば子供が「なんにも着てやしないじゃないの!」と指摘しても、人々が子供はばかだとはいわないで、共感して囁き合う場面が面白いとも考えられる。また、王様が自分は裸ではないか、と疑いながらも、そう思っただけでいい態度で行進したところが面白いともいえる。感銘する場面は、読み手によってそれぞれあるだろう。いずれにしても、王様の贅沢さを描くのではなく、お互いに嘘をつき、嘘を固め合う愚かさが批判されているので、読めば読むほど面白くなってくる。

¹⁾ 蕭紅耘「帰来吧，童心」（『語文学習』，上海教育出版社）1995年5月，14ページ。

(2) 鍵になっている表現を取り上げて、作品への理解を深める

作品中の王様の挙動を中国語の一つの言葉で表現すると、「昏君」だという。「昏君」の「昏」（頭が良くない、きちんとした判断ができない）はどこに現れているか、という教師の問いに対して、生徒たちが討論した。その結果によると、3つにまとめられた。

甲 昏君は仕事をせず、一日中衣装部屋に閉じ籠もり、新しい服の試着に夢中だ。

乙 昏君はいかさま師の嘘を信じ、裸でまちの行進に出て、恥をかいた。

丙 昏君はのせられている。彼は、新しい服が見えない人は、手に負えないばかり者などだと思った。彼は新しい服が見えるかどうかを人物を評価する基準とした。

さらに議論を重ねた結果、生徒の甲、乙は昏君の行為を指摘し、丙は昏君の“のせられぶり”を指摘した。

教師は引き続き生徒に、いかさま師の嘘と「昏君」の考えをそれぞれ書き出し、その違いを討論させた。

いかさま師の嘘：その地位にふさわしくない者や手に負えないばかり者は、すべてこの新しい服は見えない。

「昏君」の考え：この新しい服が見えないすべてのものは、みなその地位にふさわしくない者や手に負えないばかり者だ。

「いかさま師の嘘と昏君の考えは一体どこが違うか、言葉の語順を替えただけではいか」と生徒は理解できなかった。

教師は、中学生は煙草を吸ってはいけないという校則を例として、2つの短文を黒板に書き並べ、生徒にその違いを考えさせた。生徒は第四中学校1年生〇組の学生だった。

- a 第四中学1年級〇班学生都是不吸煙的人（第四中学1年級〇班の学生はみなタバコを吸わない人だ）。
- b 凡是不吸煙的人都是第四中学1年級〇班的學生（タバコを吸わないすべての人はみな第四中学1年級〇班の学生だ）。

aの「不吸煙的人」はこのクラスの生徒だけを指す。bの「不吸煙的人」の範囲は非常に広く、煙草を吸わないすべての人を指す。いかさま師の嘘と王様の考えの違いをこの例で、生徒に王様の惚けているところを理解させられた、と教師は考えている²⁾。

例のaでは、最初に部分、ある特定の小さな集団が取り上げられ、その集団の特質の多くから、タバコを吸わないという普遍的な習性が挙げられた。例bは、この普遍的な習性が先に挙げられてから、ある特定の小さな集団と結び付いた。bは成り立たないことが分かってくる。

しかし、作品の中では、見える見えないということを愚かさの基準にすることが問題なのだ。愚か者の特質の中から、新しい服が見える見えないということをも特性として挙げた。愚か者であるかどうか、服が見えるかどうかとはまったく違うことだ。いかさま師の嘘はでたらめで、最初から問題にならない。王様がこの嘘をすぐ信じてしまったのが「昏」なのだ。

何度も出てくるいかさま師と王様の「だれでも自分の地位にふさわしくない者や、手に負えないばか者には、それが見えない」という言葉は、作品の滑稽でユーモラスな世界を大きく担っている。その言葉のせいで、王様だけではなく、家臣も、人々も、みんなその嘘を呑み込んでしまった。子供だけが「昏」だらけの世界を打ち破った。みんなははっと気がつく。ここが面白い。

(3) 作品の巧みな描写に注目し、表現効果を吟味する

作品を朗読するには、作品の表現を正しく理解していなければならない。たとえば中国語では、「转了转身子，扭了扭腰肢」（体をまわして、腰をねじった）と訳されているが、教師はそれを、「转了转身，扭了扭腰」と書き換えたから、どう違ってくるか、と生徒に質問をした。

²⁾ 孫橙「“昏”在哪里？」（『語文學習』，上海教育出版社）1995年5月，14～15ページ。

この表現については、日本語では「皇帝は鏡の前で、しきりとからだをねじってごらんになりました³⁾」と訳されている。「からだ」という言葉だけで「身子」と「腰肢」の両方を表現して、「身子」や「腰肢」のニュアンスは配慮していない。中国語の文は、これを細かく「身子」と「腰肢」に分けて表現している。

「身子」は華奢な身体付きをいい、「腰肢」は少女の細いウェストを現す言葉だ。いずれも王様には似つかわしくない形容だ。このおかしさを理解した上で朗読することは、作品のおもしろみを十分に引き出すことができる。表現の細かいニュアンスから、王様を皮肉っている表現効果を味わい、その味わいを出すような朗読が指導されたのだ⁴⁾。

また授業では、皇帝の偽善さと愚かさが書かれているこの作品には、偽善と正反対になっている表現が一つだけあるとして、その表現を見つけ出すように指導をしていた。その表現は「天真」という言葉だ。教師は、生徒に「天真」を使って、短文を作らせた。たとえば「天真爛漫」、「天真可愛」、「天真自然」などなど。

「天真」の辞書的な意味は、1つは天然自然のまま、嘘偽りがなく、生まれつきのまま、無邪気なことを指す。もう1つは単純で、騙されがちなことを指す。

原文の意味はどちらなのか、生徒の意見は分かれてしまった。「“天真”はお父さんが子供を褒める言葉なので、“天然自然のまま、嘘偽りがなく”という意味だ」とする。一方で、「“上帝呦（ああ、神様）”というお父さんの驚いた叫びから、この作品での“天真”は、お父さんが子供の単純さを咎めている言葉だ」という意見もあった。

教師は、「“天真”は“天然自然のまま、嘘偽りがなく”意味だが、お父

³⁾ 大畑末吉訳「皇帝の新しい着物」（完訳『アンデルセン童話集』、岩波書店）1984年、163ページ。

⁴⁾ 付出「分角色朗読」（『語文学習』、上海教育出版社）1995年5月、15ページ。

さんが子供を咎める言葉にもなっている」という3つ目の意見を持ち出し、生徒の賛同を求めた。

「周囲の人がみんな王様の新装を褒め称えているとき、1人の子供が叫び出した——“だけど、なんにも着てやしないじゃないの!” この“叫”という表現は、子供が思わず口から滑り出させた状況を表している。これはお父さんの予想外だったので、子供の“嘘偽りのない”ことを咎めているのだ⁵⁾、と生徒は教師の意見に賛成した。

日本語なら、天真は一つの意味しかない。お父さんは慌てて子供を怒鳴るのではなく、神様よ、この子を守ってください、などというのではないか。この段落について、1990年に大畑末吉は、日本語に次のように訳している。

「これは、これは! 罪のない子どものいうことだよ。」と、その子の父親がいました⁶⁾。

なお、同じ訳者は数年前、1984年には、次のように訳していたのだ。

「こりゃ驚いた、おまえさん、無邪気なものの言葉を聞いてやってくれ。」と、その子の父親がいました⁷⁾。

前者は罪のない子供だから、子供のいうことを許してくれという意味。後者は邪心のない子供のいうことを理解してほしいという意味だろう。明らかに前者の表現の方が適切だと思う。

次のような学習活動もあった。教師は「行進が終わってから、王様はどうなったのだろうか」と聞いた。

王様も人々の囁きが聞こえた。しかし依然と頭を上げてお城の方へ進む。風が吹いてきた。王様の体に鳥肌を立て、思わず震えた。王様は一

⁵⁾ 劉榮徳「対“天真”的理解」(『語文学習』, 上海教育出版社) 1995年5月, 16ページ。

⁶⁾ 大畑末吉訳「皇帝の新しい着物」(『アンデルセン童話選』, 岩波書店) 1990年, 65ページ。

⁷⁾ 大畑末吉訳「皇帝の新しい着物」(完訳『アンデルセン童話集』, 岩波書店) 1984年, 164ページ。

連のくしゃみを残して宮殿に駆け込んだ。寝室に入ると、王様は何度も鏡で確かめ、ようやく自分は何も着ていないことが分かった。王様は奇妙な声をあげると、床に倒れ、泡を吐き、気が遠くなった。それ以来、王様は病床から離れず、死ぬ前にこういった。「いかさま師をつかまえ、嘘をついた人は全員殺し、その（「裸だ！」といった）子供を皇帝にせよ」⁸⁾。

子供らしい想像力だ。

2 『裸の王様』の面白さ

ここで取り上げた幾つかの教え方は、生徒に考えるきっかけを与え、生徒がどう感じたかということを中心に、作品への理解を深めさせるので、面白い。教師は助言者やリーダーであるが、決して生徒に説教したり、押しついたりする人ではない。教師は分析して結論を出すのではなく、文章の読み方、味わい方を示すだけだ。生徒たちは教師の設問に興味を持った。このような授業をすると、生徒は元気になるだろう。

この作品は、嘘を真実のように面白そうに書いた。王様が裸で歩くことは有り得ない。しかし有り得るように書かれた。王様、大臣、人々…、みんないかさま師の嘘を信じている。そんな所で1人の子供の叫びが、嘘をひっくり返すことは有り得ない。子供は理想的な役割を果たしている。しかし現実には、子供が公然と王様の嘘を指摘することは不可能だ。子供がそのようなことをしたら危ない。親は安全を守るために、「そんなことをいうもんじゃない」「言わないで」…と、子供を育てる筈だ。人々が子供の主張にすぐさま同調することも考えられない。

世の中の嘘はより精密に、巧緻に作られている。人々は嘘かどうかということより、その“事実”が自分にとって都合がいいかどうかで真偽、正邪を

⁸⁾ 藍瑞平「遊行大典之後」（『語文學習』，上海教育出版社）1995年5月，16ページ。

判断する。権力を持つ人たちが何を考えているのか、どのようなイデオロギー、認識が正しいとされるかと、それが真実であるかどうかとは別問題だ。

人民教育出版社語文一室が編集した「九年義務教育三年制初級中学教科書」の指導要領によると、この作品の重点は、「童話の想像と誇張」への理解に置き、文章を読んでから、「王様と大臣は何故甘んじて騙されたのか、その子供は何故真実を言えたのか⁹⁾」を考えさせよう、と書かれている。

しかし、童話とは、童心を基調として子供のために作られた物語だ。その子供が何故真実を発見できたのかは、この作品にとって大きな問題ではない。王様が何故自分で服を着ているかどうかを判断できないのかということが重大だ。

この作品は、人間社会のある一面を掘り下げている。提起された問題には現実性はなく、子供の発言に解決を委ねたのにも無理がある。私たちの身近な問題を取り上げながら、架空の世界を描いている。言い換えれば、人間社会の深刻な問題を描きながらも、ユーモラスな面を持ち合わせ、読み手を引きずり込む魅力がある。それはこの童話の想像と誇張の力によるものだろう。

登場人物のいかさま師に騙された王様の愚かさを読み手とのギャップによって、作品には滑稽さがもたらされている。登場人物が真剣に振る舞えど振る舞うほど読み手には笑いを誘う。教材としては面白い。

真実というものは難しい、という側面が理解できればよいのではないか。真実を認識することは難しいし、認識した真実を他人に正しく伝えることはより難しい。王様は裸だと指摘することは易しいかもしれないが、みんなを納得させるのは難しい。だから、嘘は通用したのだ。子供が指摘したら、直ちに人々が共感し、同調することは考えられない。裸の王様としては、すぐさま子供や親を処罰して、秩序を守り抜くのではないかと、思う。

子供は「王様は何も着ていないじゃないか」と走りながらわめいた。人々

⁹⁾ 人民教育出版社語文一室編集「九年義務教育三年制初級中学教科書 語文 第一冊」(人民教育出版社)1992年、272ページ。

は「本当に着ていないね」と囁き、動揺した。兵士はびっくりして、すぐ飛び込んで、子供と親を捕え、処罰した。王様は裸のまま行進した。人々は沈黙した。このような結末なら、まだ納得できる。

指導要領の「積累・連想」では、童話作家葉聖陶と児童文学家魯兵がそれぞれ書いた続編を載せている。たとえば葉聖陶は次のように書いている。

裸の王様は、行進中の嘲笑を聞き、すっかり怒りだした。王様はその場で「裸だと言ったものは直ちに捕まえて、殺せ！」と命令した。その結果、40、50人はすぐ処刑された。その後、王様は他の服を着なくなった。ある日、王様と酒を飲んだお妃は、王様が酒を零したのを見て、「あら、王様の胸が汚れたわ！」と思わず言ってしまった。また、大臣を辞めた家臣は、「これでもう裸の王様を見なくて済む。」との感想を漏らした。この2人はともに殺された。次回の王様の行進では、千人ほども殺された。人々は王様に新しい服に着替えるよう勧めたが、断られた。それ以降、みんなは王様を避けるようになった。しかし王様の疑いは強くなる一方で、笑い声が上がった家では、みんなが連れ出されて殺される始末だった。

巧みな創作を交えて、この作品に対する深い理解から生み出されている続編といえよう。真実はありのままに言えばいいというような簡単なことではない。王様は、子供でも気がつくような嘘に騙された。権力者の愚かさ、人間の特質や物事の真実などを見極める難しさを教えてくれている。もしこの続編と同じような読みが、授業中に子供の中から出たら、大いに評価すべきだろう。こうした解釈を付け加えることは、作品の理解をより深めるからだ。このような見解を引き出すような指導も工夫したらよいと思う。